

2016年1月3日川越教会

愛のぶどう酒を

加藤 享

【聖書】ヨハネによる福音書2章1～12節

三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。この後、イエスは母、兄弟、弟子たちとカファルナウムに下って行き、そこに幾日か滞在された。

【序】新しい年を迎えて

一昨日の新年礼拝に引き続き、**2016年の第一日曜礼拝**をこのようにご一緒に守れますことを心から感謝いたします。新しい年を迎えるということは、年寄りにとりましては、衰えが更に進むことを意味します。どのような一年になるのか、不安を覚えます。しかし御言葉をいただきました。

「わたしが**老いて白髪になっても**、神よ、どうか捨て去らないでください。御腕の業を、力強い御業を、来るべき世代に語り伝えさせてください」（詩編71：18）そうだ、老いた身なりに、子や孫たちや後の世代に、神さまの素晴らしい恵みを語り伝える歩みをさせていただこうと、示されました。**一回一回の礼拝**を感謝して守って参りましょう。宜しく願いいたします。

[1] 婦人よ

私たちは聖書教育の教案に従って毎週聖書を学んできていますが、12月から3月末までの4ヶ月間は**ヨハネ福音書**です。今日はその5回目、第2章「**カナでの婚宴**」です。ヨハネ福音書では、主イエス・キリストの最初の奇跡の記事です。**母マリア**が婚宴の接待係をしています。主も兄弟たちや弟子たちと共に出席していますから、親戚か、親しい家のお祝いでしょう。

ユダヤ人たちの慣習では、花婿・花嫁が一週間、自分の家で婚礼衣装をまとめて祝い客をもてなします。決して豊かではない農村の生活ですから、本人たちにとっては、**生涯で一番の晴れの舞台**。1週間続く宴会の準備も、さぞ大変だったことでしょう。

ところが、その祝宴の途中で、大事な**ぶどう酒**が底をついてしまったのです。原因の一つは、主イエスが弟子たちを連れて出席したからでもありましょう。でも**準備不足**は否めません。祝宴半ばで打ち切りとなれば、主催者として**大失態**です。村人の間で、いつまでも言われ続けるでしょう。接待係の母マリアは大変心を痛めて、信頼する我が子イエスに**そっと**訴えたのでした。「ぶどう酒がなくなりました」

「**婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。**」この主の返事は、一見、突き放したような口調に聞こえます。自分の母に対して主イエスらしくありません。どうしたことでしょうか。

しかしヨハネ福音書を読んでいきますと、主は母マリアに対して「**婦人よ**」という呼びかけを、もう一度しているのです。それは19章26節、**十字架**にはり付けられた主が、心を痛めて自分を見上げている**母マリア**と彼女に寄り添っている**弟子ヨハネ**に対して、激しい苦痛の中で「**婦人よ、御覧なさい。あなたの子です**」「**見なさい。あなたの母です**」と語りかけて居られる場面です。

主イエスの生涯は、シリア総督クレニオの人口調査の時（BC7～4年頃）に誕生し、総督ピラトの時（AD26～36年）に十字架刑に処せられました。世に出て宣教を開始されたのは、およそ30才（ルカ3:23）。**キリストとしての活動**はわずかに**2年余**ということが分かっているだけです。

公生涯に入る前の**個人的生活**としては、12才の時に両親とエルサレムに宮詣でに上ったこと（ルカ2:41～）、ナザレの**大工ヨセフの息子**と言われていた（マタイ13:55）という記事があるだけです。恐らく**父ヨセフ**は早くに亡くなった

のでしょうか。そこで主は 30 才までは、長男として母マリアと一緒に暮していたと思われます。

ですから主イエスは、**自分が死んだ後**の母マリアのことを大変案じておられたのではないのでしょうか。そして、弟たちが居るけれども、信仰を同じくする弟子ヨハネと共に暮らす方が**はるかに良い**と判断して、遺言のように語りかけ、二人を結び付けたのでしょうか。このように見てきますと、カナの婚礼の時の「**婦人よ**」という呼びかけにも、主イエスの母に対する優しい思いが込められていたと、受け取ってもよいと思います。

「**わたしの時はまだ来ていません**」ヨハネ福音書が記す主イエスは、**わたしの時**を見据えた歩みです。**仮庵の祭**の時に、イエスの兄弟たちが「都に上って行き、自分を世にはっきり示しなさい」とすすめると、「**わたしの時はまだ来ていない**」と答えています。(7:6)

しかしそれから 6 ヶ月後の**過越しの祭**の時には、エルサレムで、「**人の子が栄光を受ける時が来た**。はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが死ねば、多くの実を結ぶ」と語られました。(12:23) そして「父よ、**時が来ました**。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に**栄光を与えてください**」と祈っておられます。(17:1)

ですから、カナの婚宴の時は宣教活動を始めたばかり。まだ救い主キリストとしての力ある業を人々に現す段階ではないと、主自身は思っ居られたのでしょうか。それにこの婚宴の場面で、キリストとして**どのようなかわり方**をすべきなのでしょう。

キリストとしての行動は、たとえ母の願いだとしても、人間の思いで行われるものではありません。神の御業です。神の御業は**神の御心によって行われる**ものです。私たちは、自分の熱心な祈りで、自分の願い通りに神を動かそうとしがちです。しかし万事を神の御心に委ね、**待機して待つ信仰**を持たなければなりません。

【2】清めの水をぶどう酒に

それでも母マリアは、召使たちに言いました。「**この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください**」主イエスなら、晴れの婚宴を中止しなければなら

なくなる事態から、この若夫婦を必ず助けて下さると信じている**マリアの心**が伝わってきます。そうです。若者の**前途を祝福する思い**を、誰よりも一番強く持っているのは、**主イエス**ではないでしょうか。マリアの言葉を聞いて、**主の心が動きました**。

「**水がめに水をいっぱい入れなさい**」——台所にはドラム缶ほどの大きさの**水がめ**が六つ並んでいました。**清めの水**の石のかめです。ユダヤ人は、外から帰ってきたら、先ず足をきれいに洗います。また食事の時には前後に手を洗うだけでなく、食べ物が出て来る度に手を洗うので、清めの水が大量に必要でした。多分婚宴が続くうちに、ドラム缶6つの水がめも、残り少なくなっていたでしょう。

マリアから言われていた召使たちは、外の井戸まで幾度も出て行って水を満たしました。「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」するとその水が、世話役が驚くほどに特上のぶどう酒に変わっていたのでした。

神の民として、汚れの清めを第一に考えるユダヤ人にとっては、清めの水は何よりも大切です。ところが**救い主キリスト**は、その清めの水を**最上のぶどう酒に変えて**、若者たちの前途を祝福してくださったのです。大切なのは**清めの水**か、それとも主が与えて下さる**ぶどう酒**か——私たちの思いを超えたこの御業——弟子たちは**神のキリスト**の最初の御業を目の当たりにして、キリストへの信仰を持ったのでした。

【3】主の晩餐式の大切さ

結婚式——確かに人生の大事な祝い事です。**幸せな人生の門出**のはずです。でも家庭内暴力による悲劇、子どもの貧困を生み出す家庭の門出でもあるのです。年末の新聞にも「家族ほどしんどいものはない。**殺人事件で最も多いのも家族の間**」という大きな見出しが、記載されていました。

祖父母を殺害した千葉の中学生は、友達関係のストレスを解消するために殺したと言っています。学校でもバイト先でも、おっとりした子、きちんとした生徒で、悩みに気付かなかったそうです。自分のストレス解消と祖父母殺害とを結びつけてしまう**罪深さ、心の中の底なしの闇**の恐ろしさを覚えます。

清めの水で手足を洗って清めても、にぎやかに新年や結婚を祝っても、それだけでは**不十分**なのですね。人類で最初に月に降り立った**宇宙飛行士チャーレ**

ス・デュークは、訓練に没頭している間に夫婦愛がこわれて、奥さんは精神のバランスを失い、自殺を図りました。そこで彼らはイエス・キリストに**助けを求めました**。「科学技術は心の安らぎを与えてくれませんでした。この世の栄光を受けても、それだけでは成功した人生ではありませんでした。家庭に**ぶどう酒**が尽きてしまったのです」と語っていました。

私たちは、今日もこれから**主の晩餐式**を守り、パンとぶどう酒の杯をいただきます。そして**十字架**でご自身の肉を裂き、血を流して、私たちに**滅びることのない命を与えて下さったイエス・キリスト**を、救い主として我が身の中に受け入れた信仰を、確認し合います。

宇宙飛行士デューク夫妻も、自分のことしか考えないようになってしまった罪から解き放たれ、相手のために命を捧げて仕えていこうとする**キリストの愛のぶどう酒**をいただいて、家庭を蘇らせることができました。私たちもその信仰を、**晩餐式を守る度に**新たにいたしましょう。

台所で働く**召使たちは**、「村中を駆け回ってぶどう酒を集めよ」とは言われず、水を6つの石がめに満たせと命じられました。必要なのはぶどう酒です。「どうして清めの水を大量に汲んで来なければいけないのか」とつぶやいて、動かなかつたら、ぶどう酒は与えられなかったでしょう。

主イエスの恵みをいただくためには、その**お言葉通りに聞き従う信仰**が必要なのです。主イエスには、**主イエスのなさり方**があるからです。人は皆、自分なりに一生懸命に励みます。でもそれに行き詰ったならば、今度は**神さまのなさり方**に全て従ってみるべきです。

なりたての弟子たちはこの奇跡を目の当たりにし、主イエスが与えて下さる**神の祝福の豊かな輝き**を見て、深く感銘しました。そして、このお方に生涯従って行こうという信仰を与えられたのでした。

【結】愛のぶどう酒を

結婚式という人生の門出、新しい**家族の誕生**を、皆で祝福することも大切です。しかし殺人事件は家族の間で最も多く起きているのです。「結婚くらい**ストレス**になるものはない」という言葉も聞きます。家族の墓に入らない人も増えているそうです。**家族の実態**を鋭く説く人も現れてきました。自分たちが持ち合わせている愛だけでは、幸せな家族は生まれません。

無くてならぬものは**愛**です。でも自分の愛ではなく、**神さまから頂く愛**です。神に喜ばれるお互いとして、**共に生きていく愛**です。それは、十字架でご自分の肉を裂き血を流して、**私たちの罪を贖って下さったイエス・キリスト**を、私の救い主として信じて、**我が身にお迎えすることによって与えられる愛**です。

カナの婚宴に主イエスが居て下さって、本当に良かったですね。若い二人が生涯にわたって、**愛のぶどう酒**を飲み続けてもらいたいものです。我が子、孫たち、また共に生きる方々にも、飲み続けて頂きたいものです。そのために私たちも、礼拝を大切に守りながら、**祈り、労する一年**を送ろうではありませんか。

祈ります：神さま、清めの水を特上のぶどう酒に変えて、若い二人の前途を祝福して下さい。イエスの愛に、深い感動を覚えます。このような救い主と共に生きることの出来る、信仰の恵みを感謝します。あなたから愛のぶどう酒を頂いている者として、その愛を身近な者にもすすめていく一年を、送らせて下さい。そのためにも、礼拝を大切に守り、愛のぶどう酒をあなたから頂き続ける一年を、送らせて下さい。十字架の主イエス・キリストの御名によって
pお祈りします。　アーメン

完